

(総合科学部・専門的教育『言語』)
現代言語理論C (講義 4セメ 2単位)

認知プロセスとしての言語の探求

吉田 光演 (Mitsunobu Yoshida)

総合科学部 外国語コース (A棟324)
内線 6452 mituyos@ipc.hiroshima-u.ac.jp

第1回(序論)

【授業の目標】

世界には、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、トルコ語、アラビア語、中国語、朝鮮語、日本語など多様な数多くの言語がある。このような言語の多様性は単に歴史の偶然か？それともそこには何か普遍性があるのか？「言語はコミュニケーションの道具だ」という考えでは、言語の多様性は社会の産物であり、地球規模のグローバルコミュニケーションの時代では、ひとつの言語に向かって統一した方がよいという発想も出てくる。言語は、社会の慣習に従ってルールを自由に換えられるような道具か？

しかし、言語は単なる道具ではない証拠もある：

- ・なぜ、人間以外の霊長類はことばを操ることができないの？(チンパンジーの記憶、たとえば図形記憶のような認知能力は人間とそれほど変わらない。が、どんなに訓練されたチンパンジーも、幾つかの2語文しか学習できず、また、作れない)
- ・数を10個も数えることができない2～3才の幼児が急速に、しかも自在にことばを発することができるのはどうしてか？(言語の獲得の速さ)。
- ・コンピュータの計算能力は非常な処理能力になり、記憶容量も膨大になったが、それでも言語を学習することはほとんど不可能である。人間の脳は有限のニューロンしかないのに、そんな言語を処理できるのはどうして？
- ・音声は意味を伝える最適の道具か？美しくさえずる鳥はいるが、その意味はよく分からない。チンパンジーやゴリラは身ぶりが得意で、道具もうまく伝えるが、音声器官は発達していない。なぜヒトにおいて、異質な音と意味は結びつくのだろう？それに、言語の音声と意味はたいてい1対1に対応していない。道具としてはあまり効率的ではないのに、人は言語を的確に使用できる。どうしてか？

シンクロ団体演技の解説：「これから長い足技が出ます」の意味のあいまい性

哲学者 Wittgensteinは晩年、「言語はゲームと同じ」であり、言語のあり方は「言語を実際に使っている」状況でしかわからないと主張した。サッカーでパスやフリーキックのもつ意味を知ろうとしても、サッカーのゲームの外からそれを記述し、その機能を説明するのは難しい。それと同様に、「その本とって！」という発話の意味を言語ゲームの外で記述するのは無意味であるというわけだ(「その本」とはどの本？

「とって」は「もつ」だけでよいのか？etc.)だから、Wittgensteinふうにいえば、上の問いは無意味になるかもしれない。にもかかわらず、人間は好奇心のかたまりであり、言語がゲームの性格をたともっていても、「なぜそんなゲームができるの？

なぜ言語のゲームを選んで、他のゲームにしなかったの？」と考えたくなる。

もう一つの例。「デパートガール」から「デパガ」,「コスチュームプレー」から「コスプレ」,「一般教養」から「パンキョー」,「マクドナルド」から「マック」 いろいろな省略語ができる。元の語と省略語の間に何の規則性もないのかというところでもない。「デパーガ」,「コスレ」,「パンキョヨ」では少し変だ。ゲームならどうやっても面白ければ、あるいは簡単ならよいのに。何かルールがある。しかし、「変だ」という直観の背後のルールは実ははっきり見えていない。

単語の短縮について、日本語では一頃「アッシー」とか「メッシー」とかいった呼び方がはやった。面白いことに[i:]の音はドイツ語の省略にも使われる：Ossi, Wessi, Studi, Azubi, Zivi ...などである。何か理由があるのだろうか？

(i) 母音としての[i:]の特徴は？

(ii) 母音を入れることでいかなるリズムが得られるか？

自分の心を知ることはもっとも困難だが、みんなが共有する言語の探求を通じて、「心」の一部をかいまみることができるともかもしれない。

もう少し具体的な目的を考えると、言語について反省することによって、言語によって操作されたり、言語を手段としてヒトを惑わすことを避ける工夫が得られるかもしれない(ひょっとすると、効果的にヒトの心をつかむコツも得られるかも)。たとえば、「代替エネルギーとしての原発は必要だ」という主張には、はっきり言明されていない<前提>が潜り込んでいる。この文の肯定・否定を考えてみよう：

(1) 「代替エネルギーとしての原発は安全だ」

(2) 「代替エネルギーとしての原発は安全ではない」

真理条件に関連する意味論の立場では、ある主張はある一つの状況に照らして「真」であるか「偽」であるかのいずれかである。どちらの文でも「代替エネルギーとしての原発」の存在、すなわち「原発は代替エネルギーである」という言明(statement; Aussage)は否定されてはいず、暗黙の前提になっている。このように肯定文でも否定文でも否定されない部分を前提(presupposition)と呼ぶ。正しくない、又は疑問の余地のある命題を前提することは議論では避けなくてはならない。つまり、上の主張は以下のように言わねばならなかったのである：

a) 「原発は代替エネルギーである」 b) 「この原発は安全だ」

こう言えば、「えっ、原発は代替エネルギーになるのかな？」と自問自答する人も増えるはずだ。言語の意味や言語の使用を考察する意味論や語用論では、このような領域も話題になる。前提の他の例を示そう：

(3) 「あなたはもうタバコをやめましたか？」の質問に非喫煙者はどう答えるべき？

(Haben Sie schon aufgehört zu racuhen?)

まとめ：この授業では言語をヒトの心の中心をなす能力としてとらえ(=認知的なプロセス)、言語と思考という観点から言語の多様性と普遍性というクエスチョンに可能な答を探し出すことを目標とする。

=====
 テーマ1 形態論 単語って何？語はどこまで分解でき、どうやって新語を作る？
 =====

語の成り立ちを分析する言語学の分野は「形態論(morphology)」と呼ばれる。

1. 語の特徴

語はひとまとまりのアクセントで発音される。標準日本語の場合だと、一般に第一音節と第二音節の間に必ずアクセントの高低、低高という山がある。例えば、「司法」(シ|ホー)や、「試験」(シ|ケン)となるが、「司法試験」では、「シ|ホー|シケン」となり、新しいアクセントパターンになる(日本語ではいったん音調が下がってしまうと、再び上がることはない：*高低高はない)。英語でも、一語の blackboard だと「黒板」だが、black board だと「黒い板」と2語の意味になる(複合語のアクセントは一般に前に来る)。

語はひとまとまりの意味をもつ。

「ヒ」は燃える「火」を表し、「ト」は開閉する「戸」を表せるが、「ヒト」は「人間」を表すのであって、「火(çi)」&「戸(to)」ではありえない。[ç]も[t]も意味を区別する音素ではあるが(「火」vs.「美」,「砂糖」vs.「茶道」),それ自体で意味を表すのではなく、幾つかの音素のまとまりによって意味を表す。もちろん同音異義語の場合には、同じ音素列で、違う対象を指しているのが、別々の語ということになる(「詩」と「死」)。

語の内部に統語的な操作を加えることはできない。

(1) a. 今日は月見をしよう。 b. 今日は曇って、月を見ることはできない。

「月見」は「月」と「見」から合成された複合語であり、意味としては「月を見ること」と同じである。しかし、「月見」や「花見」とは言えるが、「月を見」とか、「花の見」とかは言えない(格助詞を間に入れられない)。この意味で、語はその内部に文法的な操作・変更を加えられない単位である。他方、「月を見る」であれば、「満月を見る」と言い換えたり、「月を見た」と言ったり、変更が可能であるから、意味的な分離が可能である(複数の語からなる)。また、「すばらしい月見」はよいが、「丸い月見」はおかしい。なぜか？

(2) [すばらしい[月見]](「月見」全体を修飾)

(3) [[丸い[月]]見](「月見」の中の「月」を修飾)

(3) では、最小単位の「語」ではなく、それより複合的な「句」(phrase)を語の内側にもってしまっている。これは「語の内部に句は入ることはできない」と一般化できる(「方言調査する」に対して、*「方言の調査する」)。「句」とは何か？については、語は意味を表し、文を作る最小単位であるのに対して、句は文を作り、主語や目的語などの文法機能を表す単位ということが出来る(語は頭の中の辞書に登録され

ているが、句はその時その時に語から組み立てられていく)。日本語では冠詞というものが無いので判然としない場合もあるが、語が小さな単位で、句は大きな単位ということは直感的にも分かる：

- (4) a. 美しい丸い月 b. *the old car* = phrase
 / \ / \
 美しい 丸い月 the old car
 / \ / \
 丸い 月 old car = word

- c. *der neue kleine Kindergarten* (=the new small kindergarten)
 / \
 der neue kleine Kindergarten
 / \
 neue kleine Kindergarten
 / \
 kleine Kindergarten

もっとも、句がひとまとまりで単語として登録されてしまうケースもある。

- (5) *Vergißmeinnicht* (= forgetmenot)

2. 辞書(lexicon)

ここでいう辞書とは本になっている辞書のことではなく、人間の頭(脳)の中に学習され、記憶される語のレパートリーという意味の辞書(mental lexicon)である。そこには、次のような情報が入ってくるはずである：

- (6) (i) 語の音声特徴 [ri:d] (ii) 語の意味特徴 [読むという動作]
 (iii) 語の品詞的・文法的な範疇(category) [動詞: V (verb)]
 (iv) その他の特殊な情報 [目的語として読む対象, 主語として人を要求する]

文法的な範疇

(名詞 N, 動詞 V, 形容詞 A, 前置詞(後置詞) P, 副詞 Adv, 冠詞 D(determiner))

このような語彙の情報(データベース)があって初めて具体的な個々の言語になり、例えば" I read this book" のような文を発することができる。その他、イディオム(「油を売る」)なども登録しておかねばならない。音と意味の結びつきは基本的に言語によって任意、恣意的であるから、辞書の情報は、その母語を獲得する子供が一つ一つ記憶していかねばならない学習プロセスである。

ある言語の単語の数は非常に多いけれども無限ではなく有限個である。しかし我々はそのつど新しい語を作り出す能力をもっている(「過去問(カコモン)」<過去の問題集)。このことは単語を記憶すること(長期記憶)と同時に、単語を組み合わせ

て新しい語を作るメカニズムも備わっていることを意味する。新しい語を作ることは「語形成」(word formation /Wortbildung)と呼ばれる。

そればかりではなく、語じたいの記憶の方法も逐次学習ではなく、内部の構造を分解して、組み合わせていく方法を人間はもっていると考えられる。例えば、動詞には五段活用や上一段活用、下一段活用などがあり、日本語学習者は動詞を一つ一つ「書かない、書きます、書く、書けば、書け、書こう」、「見ない、見る、見れば、見ろ」と活用形を覚えるわけではない。英語でも、call, called, talk, talked, ...のように一つ一つ過去形を覚えていくわけではない(come, cameのように変則的な形は個別に記憶されるが)。

あるいは、「茶」に対して「お茶」ができるように、丁寧語として名詞に「お」をつける規則を我々は身につけている。これらが示すのは、「語を形成する心的なメカニズム」がどの言語にもあるということである。また、語は意味を表す最小の単位ではなく、語ももっと小さな単位からなるということである。

意味を表す最小の単位を「形態素」(morpheme/Morphem)と呼んでいる。

3. 形態素とは？

意味を区別する最小の音声的な単位は「音素(phoneme)」。日本語では有声子音と無声子音は対立的なので、「牡蠣(kaki)」と「鍵(kagi)」はまったく別のものを指す([k]と[g]は別々の音素)。

ところが、もう少し幅広いレベルで見ると、「靴(kutsu)」に対して、「長靴(nagagutu)」となるから、「ナガ」+「グツ」の形が得られる。ここでは、[kutu]は[gutu]となり、[k]と[g]の音の対立は消失する(「中和する」という)。こうした現象は「連濁」と呼ばれる。(押し花、下駄箱、ゆでだこ)

ドイツ語の例：

dir (君に) vs. Tier (動物) [d]と[t]は区別される。
des Rates vs. des Rades ==> Radu, Ratu [ra:t] 語末音の中和

われわれは、個々の音をまとめて、頭の中にストックしてその意味を覚えている。普通のことばではこの意味のまとまりを「単語」と呼んでいる。しかし、「クツ」はそれ自身で対象を指すことができ、独立して使用できるが、「グツ」は何かと結合した時にしか使えない(それでも、足にはく物を指すのは確か)。

そこで意味を表す最小の単位のことを「形態素」(morpheme)と呼ぶことにする。

「クツ」も「グツ」も形態素である。

"John visited Hiroshima"という場合の"visit"と"ed"は独立した形態素である。前者は動詞の語幹(語根)であり、後者は過去を表す時制形態素である。ドイツ語の"Hans und Maria wohnten in Hiroshima"という文の動詞では、"wohn-"(動詞語根の形態素)、"te"(過去の形態素)、"n"(3人称複数の形態素)に分解できる。

練習問題： 次の文・句を形態素に区切りなさい

- 1) 田中さんは昨日山道で転落した
- 2) He was unhappy to see his country's plight.
- 3) Koalitionsvertrag (連立の契約)

4. 自由形態素と拘束形態素

形態素それ自体で独立して語として使えるものを「自由形態素(free morpheme)」と呼び、何かとくっついてしか使えないものを「拘束形態素(bound morpheme)」と呼び、形式的に区別する。例えば、「ハコ」は独立して名詞として使えるから自由形態素であるが、「下駄箱」の「バコ」は他の名詞と結合してしか使えないから、拘束形態素である。過去形態素や複数形態素ももちろん拘束形態素であるが、動詞の語根も言語によっては拘束形態素となる場合もある(例えば、ドイツ語の「学ぶ」="lernen"の語幹 "lern-"はそれだけでは独立して使えないので、拘束形態素)。形態素が意味を表す最小の原始単位だとすると、「単語(語) word(Wort)」とは、「独立して何かの意味を示す形態素、または形態素の集合」であると言える。

5. 形態素の内容的な区別

自由形態素と、拘束形態素は純粋に形式的な区別である。それに対して、機能面から形態素を区別しておく必要がある。

(7) 語幹(語根 stem)：具体的内容を表す名詞、動詞などの語彙範疇の不変の部分
例： 食べ-る walk book arbeit-(en), lern-(en), Kind-(er)

(8) 接辞(affix)： 抽象的な意味しかなく、語根の前や後ろにくっついて語を作るもの(これは必ず拘束形態素)

接辞は接頭辞(prefix)と接尾辞(suffix)に区別される。

例： 超-, お-, 不-, か-, ま-, un-, in-,
-的, -さ, -手, -屋, -er, -ing, -ed, -s, -tion, -ung

形態素は意味を表す最小単位だから、たとえ区切りが感じられても独立した意味が認定できなければ、一つの形態素(または語)とする：

例：

cranberry, strawberry, blueberry, raspberry, ..しかし-berryは何も表さない(Erdbeere, Himbeere, Johannisbeere..の場合は"Beere"(イチゴ類)で語として認定されている)

・問題 次の語を形態素分解してみて

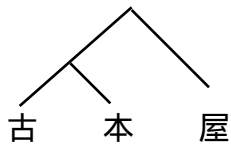
- (1) 食べさせられた (2) 書かせられた
- (3) 「生牡蠣」は「ナマガキ」だが、「合い鍵」は「アイカギ」であって「アイガギ」にはならない。どうしてだろう？

6. 語形成 (新しい語を作る) の仕組み

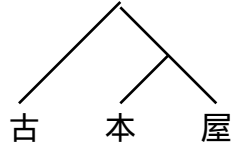
1. 語形成のまとめり (階層構造)

(1) 「古本屋」

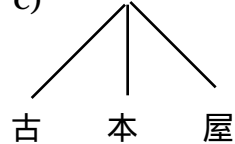
a)



b)



c)



・ どのようなまとめり方をしているか? (意味とカテゴリー)

二分岐枝分かれ (binary branching)

練習 次の単語の内部の枝分かれを示しなさい。

- 1) 大学入学試験 2) unreliable 3) Autofahrer
4) killer shark 5) shark killer

複合語の性質を決めているのはどの要素ですか?

概念:

- ・ 品詞: 名詞 N, 動詞 V, 形容詞 A, 前置詞 P
(これら具体的な意味をもつものを「語彙範疇」(lexical category)と呼ぶ)
- ・ 接辞: (接頭辞, 接尾辞) 抽象的な意味しかない。

- ・ 「主要部」(head): (合成)語全体の品詞を決定する要素。中心の要素。
- ・ 「補部」(complement): 主要部を意味的に補うもの(目的語のような物)。
- ・ 「付加部」(adjunct): 副詞のように何かを修飾するがなくてもよいもの。

「言語学」 < 言語を学ぶ 「言語」が補部で, 「学」が主要部

右側主要部の規則(Righthand Head Rule):

合成語では, 右端の要素が主要部になる(例外はある)。

(「グラスレモン」vs. 「レモングラス」)

右側主要部の反例:

防水, 読書, 訪米, 省エネ, 脱サラ 左側が主要部。どういう語?
ただし, 「読書週間」, 「防水加工」, 「訪米決定」

2. 語形成の種類

- i) 複合 (compounding): 名詞と名詞, 名詞と動詞のように語彙範疇どうしを組み合わせたもの。

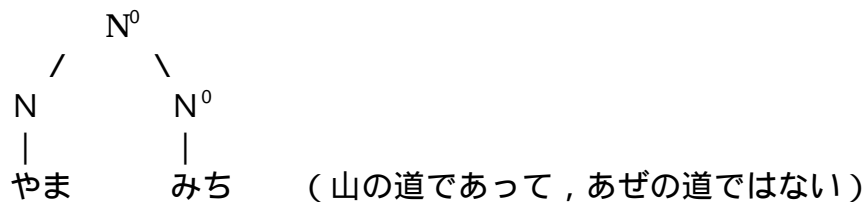
[N book] + [N store] bookstore [P under] + [N shirt] undershirt
 [N Buch] + [N Handlung] [N Buchhandlung]

ii) 派生(derivation) : 名詞と接尾辞のように, 接辞をくっつけて新しい語を作るタイプ (品詞が変わることもあるし, 変わらない場合もある)。

[V teach] + [N(suffix) er] teacher

3. 複合のタイプ

- 1) 補部 (限底部) + 主要部タイプ (補部が主要部を補っている) 限定合成
 山道, 大学改革, 大学入試センター, 雨傘, 持ち上げる, 掃き出す
 blackboard, playground, world-famous
 Krankenhausbau, Donaudampfschiffahrtsgesellschaft

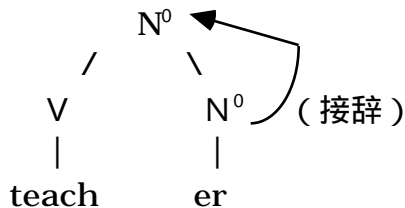


- 2) 主要部 + 補部
 防水, 読書, 訪米, 省エネ, 脱サラ, 製パン

- 3) 補部 + 補部 (主要部がない) (外心複合語)
 scarecrow, pickpocket, pushup, 赤帽

- 4) 補部 + 補部 (並列複合語)
 親子, 男女, 生死, 日米, 寝起き, 出入り
 spazierengehen

- 2) 派生 (新しく品詞を作り出す働き)
 teach+er -> teacher speak +er -> speaker, drive+er -> driver
 -er には独立した語彙意味は希薄だが, 動詞を名詞に変える (人の意味)



動詞なら何でもいいというわけではない :

*goer, *faller, *haver, *feeler なぜだめか ?

他の例：

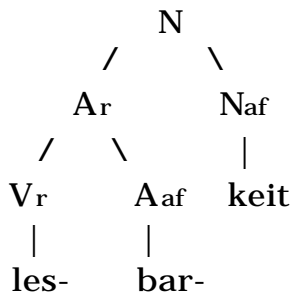
world-famous, natural, unkind
Sichtbarkeit, gangbar, kindisch

脱名詞化派生動詞： (denominal) salt + 0 -> salt butter + 0 -> butter
研究 + する 研究する
ver + salz + en-> versalzen

脱形容詞化派生動詞： grün + en grünen

派生の階層構造

(1) Lesbarkeit (= readability) *Leskeit



(r = root, af = affix)

練習問題

- ・ activityless inactivate を分析しなさい

4. 短縮(clipping)

(1) うなぎどんぶり うなどん 学生割引 がくわり
 サラリーマン金融 サラ金 イメージチェンジ イメチェン
 木村拓也 キムタク 地方銀行 地銀
 パーソナルコンピュータ パソコン
 コスチュームパーティー コスパ

どのような短縮の仕方をしているか？